

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

93



高齢化や多様化する生活課題の中で、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりが求められています。高齢や障がいにより介護が必要になったとき、「外出できなくなる」「人との距離が遠くなる」と感じる方も少なくありません。しかし、介護や障がいがあったとしても、地域や人とのつながりを保ちながら、自分らしく暮らすことは可能です。大切なのは「できないこと」ではなく、「できること」に目を向け、その人の強み（ストレングス）を引き出す支援です。

長野県福祉大学校介護福祉学科（専攻科）では、保育士資格取得後に1年間で介護福祉士となる人材を養成しています。社会の理解、介護の基本と技術、医療的知識に加え、障がい当事者の講話や高齢者・障がい者施設での実習を通じて、利用者一人ひとりの生活や気持ちに寄り添う姿勢を養います。

特に地域との協働を重視し、ライフドアすわの「認知症カフェ」に学生が参加し、令和6年度は「手作り回想カルタ」、令和7年度は「諏訪散策すごろく」を地域の皆さんと共に制作・実践しました。これらの交流で、地域の皆さんは魅力の再発見や思い出を語り、笑顔が広がりました。学生もまた、一から企画し完成させる大変さを実感しつつ、地域とのつながりの価値を深く学びました。

さらに、毎年9月に開催させる世界アルツハイマー月間に向けて、認知症サポーターキャラバンのマスコット「ロバ隊長」を手作

長野県福祉大学校 介護福祉学科専任教員

田丸 美咲

若い力、笑顔でつながるまち
学びと交流、支え合いの輪

りしています。2年間で4000個を配布し、啓発活動は地域イベントや福祉フェスタで展開してきました。今年5月、塩尻市のコンビニエンスストアで、見知らぬ男性のカバンに本校の作ったロバ隊長が付いているのを見つけました。その瞬間、驚きと喜びが込み上

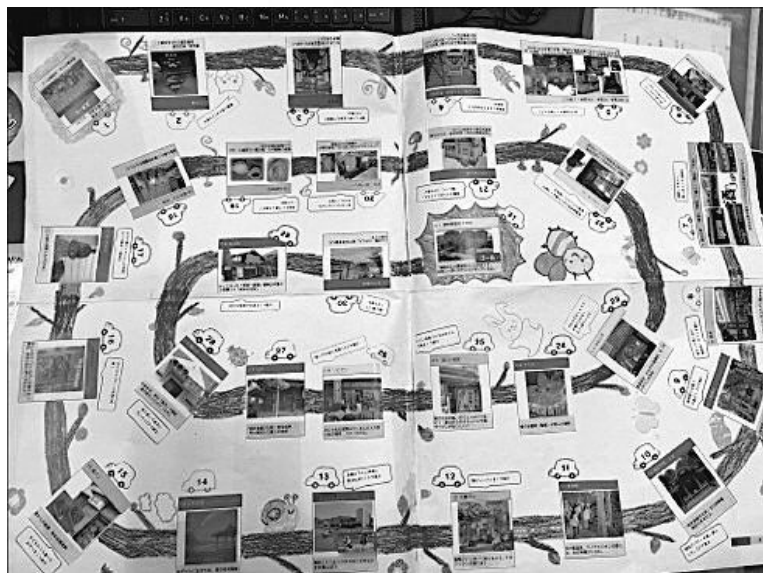
げ、「啓発は一步步地道に積み重ねることでの力になる」と確信しました。地域で共に暮らすためには、「その人を正しく知る」ことが出発点です。興味を持ち、少しの勇気をもって関わることで、地域全体が支援力を高められます。私た

ちは今後も、学生の若い力と学びを地域に還元し、行政・関係機関・住民との連携を深めながら、誰もが安心して暮らせる持続可能なまちづくりに貢献していきます。引き続き温かいご支援をお願いいたします。

次回は11月9日掲載予定



認知症サポーター
キャラバンマスコット「ロバ隊長」



諏訪散策すごろく